

令和5年度第3回福岡県観光審議会 議事概要

1 開催日時・場所

(1) 令和6年1月11日(木) 14:00～16:00

(2) 福岡県庁行政棟 10階特9会議室

2 議題

(1) 第三次福岡県観光振興指針(素案)について

3 議事概要

別紙のとおり

開会

【事務局】

それでは定刻となりましたので、ただいまから「第3回福岡県観光審議会」を開催いたします。

本日は、お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

私は本日の進行役を務めさせていただきます観光政策課企画管理係長の古澤と申します。よろしくお願いいたします。

まず、資料の確認をさせていただきます。

お手元の配付資料一覧の上から順に、

「次第」、「委員名簿」、「座席表」、「【資料1】 第2回福岡県観光審議会における委員からの主な意見等」、「【資料2-1】 第三次福岡県観光振興指針【概要版】（素案）」、「【資料2-2】 第三次福岡県観光振興指針【全体版】（素案）」となっております。過不足等ございましたら、挙手をお願いします。

無いようですので、進めさせていただきます。

はじめに、観光局長の山北から一言ご挨拶申し上げます。

皆さんこんにちは。福岡県観光局長の山北でございます。

委員の皆様には、新年早々ご多忙の中、当会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

今年の年明けは、地震をはじめ、心傷む出来事が立て続けに起こりました。お亡くなりになられました方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げ、一日も早い復旧、復興を心よりお祈り申し上げます。

さて皆様には、昨年から本県の第三次福岡県観光振興指針の策定にあたり、それぞれのお立場から様々なご意見をいただきました。事務局としては、気づかされる点がたくさんありまして、本当に感謝しております、ありがとうございます。

本日は、事務局におきまして、前回いただきましたご意見を反映させながら作成いたしました素案の方をご説明させていただきます。

不足している点等、まだまだあると思いますが、今回も皆様から率直なご意見いただければ幸いです。

本日もどうぞよろしくお願いいたします。

次に、開会にあたりまして、本審議会の会長にご挨拶をお願いいたします。

【会長】

本日は年も明け、令和5年度第3回目の審議会となります。

委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中ご出席いただき、ありがとうございます。

元旦には、「令和6年能登半島地震」により、石川、富山、福井、新潟各県を中心とした地域に、甚大な被害が発生しております。また、海上保安庁の航空機の事故、北九州市の鳥町食堂街の火災など、大変心痛む出来事が続いております。

1日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げますとともに、観光に携わる者といたしましても、旅行者の皆様へ安全・安心な旅を提供しなければならないという立場から、一層身を引き締める必要があるというふうに思っておるところでございます。

さて、足元の観光の状況をみますと、JNTOが発表した昨年10月の訪日外国人観光客数が、新型コロナウイルス感染症拡大後に初めて2019年同月を超えるなど、インバウンドを中心に、引き続き堅調に推移しています。

4月からはいよいよ福岡・大分デスティネーションキャンペーンが開催されます。キャンペーンが福岡県の観光振興への更なる追い風になることを期待するところです。

前回の審議会では、「第三次福岡県観光振興指針（骨子案）」について、委員の皆様から、それぞれのご経験を踏まえ、大変貴重なご意見をいただきました。

本日の審議会では、前回の審議会でご覧いただいたご意見等を踏まえて、事務局が作成した「第三次福岡県観光振興指針（素案）」について御議論をいただきたいと思っております。

今回ご議論いただく素案について、ご意見を踏まえて修正を加えたのち、パブリックコメントを実施していくこととなります。委員の皆様からは、今回もそれぞれのお立場から忌憚のないご意見をいただきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】

会長ありがとうございます。

定足数についてご報告いたします。

委員総数13名中、本日のご出席はオンラインでご出席されている委員の方を含めまして、8名でございますので、福岡県観光審議会規則第8条第2項の過半数の出席の要件を満たしており、本審議会は有効に成立していることをここにご報告いたします。

それでは、これ以降の進行は、会長の方をお願いいたします。

議題1 第三次福岡県観光振興指針（素案）について

【会長】

それではお手元の議事次第に沿って、進めさせていただきます。

最初に議題1、第三次福岡県観光振興指針（素案）についてであります。

事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

観光政策課課長補佐の眞鍋と申します。

本日は、課長の吉田が会議を欠席しておりますので、私の方からご説明させていただきます。少し長くなりますけれどもよろしくお願い申し上げます。

まず、A3一枚の資料2-1、「第三次福岡県観光振興指針（素案）概要版」が、前回の審議会でお示しした骨子案を時点修正したものになります。後ほど資料1でご説明いたしますが、前回の審議会でご覧いただいたご意見を反映するとともに、文言の整理を行っております。

また、骨子案では赤色の四角囲みの「④数値目標」については事項のみお示ししておりましたが、今回具体的な数値を記載しております。ただし、リピーター率については現状値について現在調査中のため、今回目標値をお示しすることができません。リピーター率を含め、数値目標については後ほど詳しくご説明いたします。

次に、冊子の資料2-2、「第三次福岡県観光振興指針（素案）全体版」が、今回実際に策定する第三次指針の素案になります。

1枚おめくりいただきまして、目次をご覧ください。

第1章から第5章で構成しており、資料2-1の「1. 観光を取り巻く環境」が「第3章 観光を取り巻く環境」に対応しており、資料2-1の「2. 第二次観光振興指針の目標と現状」が前後いたしますが、「第2章 第二次指針の取組と主な成果」に対応しております。また、資料2-1の「3. 目指す姿と基本戦略」が「第4章 目指す姿と基本戦略」に対応しております。

なお、第5章は施策の推進体制として、観光振興条例に基づく県、市町村、観光事業者などの役割や連携方法などについて記載しており、参考資料には県の観光振興条例や国、九州の観光計画などを記載しております。

また、資料2-2には、③の施策の柱ごとの成果指標を記載しております。具体的には、32ページから35ページのそれぞれのページ下段になります。38ページにも再掲で成果指標を記載しております。

それでは、資料1「第2回福岡県観光審議会における委員からの主な意見等」をご覧ください。

こちらは、前回の審議会において委員の皆さまからいただいたご意見と、今回お示しする素案への反映状況についてまとめたものになります。

9つございまして、順を追ってご説明させていただきます。

1つめは、「目指す姿の「つながる」ことが、どのように課題解決につながるかが分かりにくい。」というご意見です。こちらについては、資料2-2の30ページをご覧ください。

30ページは、「第4章 目指す姿と基本戦略」となっており、「I 基本的な考え方」として、「本県の現状・課題を踏まえ、本県の観光産業が持続的に発展していくためには、観光関連事業者、市町村をはじめとする自治体、観光協会、地域住民が連携し、一体となって観光振興に取り組むことで、魅力的で何度でも訪れたい地域となることが重要です。」を記載しております。

この「連携し、一体となって観光振興に取り組む」こと、すなわち“つながる”ことにより、認知度の向上や周遊促進が図られるものと考えております。

2つめは、「Ⅲ 基本戦略の「1 回復するインバウンド需要の本県への着実な取り込み」に「ターゲット国・地域に」とあるが、「ターゲット国・地域ごとに」が適切ではないか。」というご意見です。

こちらについては、同じく30ページの「Ⅲ 基本戦略」の「1 回復するインバウンド需要の本県への着実な取り込み」にて、修正を反映しております。

3つめについても、同じく「Ⅲ 基本戦略」の「1 回復するインバウンド需要の本県への着実な取り込み」に関するご意見で、「「東アジア、東南アジア」は広い言葉であり、具体性が見えない。」というご意見です。

こちらについては、30ページの該当部分の文末にかっこ書きで、「東アジア：中国・韓国・台湾など、東南アジア：タイ・ベトナムなど、欧米豪：米国・英国・仏国・豪州など」を追加いたしました。

4つめは、「Ⅲ 基本戦略に、現在非常に問題となっている「人」の問題の解決を記載した方が良いのではないか。」というご意見です。

こちらについては、「Ⅱ 目指す姿」の4つめの○に、「地域に誇りや愛着を持って暮らし、学び、働いている人々が観光と「つながる」ことで、地域観光の担い手となっている。」と、担い手について記載したうえで、基本戦略の「4 持続可能な観光（観光SDGs）の推進」の「地域社会に好循環を生む持続的な仕組み作り」に担い手の確保・育成も含まれているためです。また、施策の柱の「4 観光振興の体制強化」に「（1）各地域の観光を支える人づくり」を掲げるなど、「人」の問題解決に関する記載をしているところです。

5つめは、「Ⅲ 基本戦略の「4 持続可能な観光（観光SDGs）の推進」は、基本戦略の1～3を含むものであり、基本戦略の1～3と4との間で不整合や抜け漏れが生じないか。」というご意見です。

こちらについては、対応（案）をご覧ください。ご指摘のとおり、「持続可能な観光」は、基本戦略の1～3を含む概念ですが、国の観光立国推進基本計画の基本方針においても「持続可能な観光地域づくり戦略」が「インバウンド回復戦略」、「国内交流拡大戦略」とともに掲げられていることを踏まえ、本県においても基本戦略の一つとして整理させていただければと思います。

6つめは、「高付加価値旅行者の誘客を盛り込んだ方が良いのではないか。」というご意見です。こちらについては、33ページをご覧ください。

33ページは、施策の柱の「2 観光資源の魅力向上」のページになります。ご意見を踏まえ、「（2）体験、交流、滞在型観光の推進」に、「②本県の豊富な自然や、多彩な文化、サイクリング、トレッキングをはじめとしたアクティビティを組み合わせたアドベンチャーツーリズムなど、高付加価値な旅行商品の造成に取り組みます。」を追加しました。

7つめは、「福岡県は九州の入口であり、九州の入口としてのブランディングや、九州のプロモーションとセットでのプロモーションが重要ではないか。」というご意見です。こちらについては、34ページをご覧ください。

34ページは、施策の柱の「3 戦略的なプロモーション」のページになります。前

回の審議会でお示しした骨子案にも記載はしてはしましたが、(3)で「九州一体となったプロモーション」を掲げておりました、具体的には、「①九州各県や一般社団法人九州観光機構と連携し、旅行博や商談会の出展等、九州全体の観光振興を図ること、本県の認知度向上と誘客を図ります。」を記載しております。

8つめは、「インバウンド誘客は重要であるが、日本人旅行者の満足度の向上に取り組むことも重要ではないか。」というご意見です。

こちらについては、30ページをご覧ください。「Ⅲ 基本戦略」の「2 リピーターの確保と県内の周遊促進」について、冒頭に「国内外からの」を追加しております。また、32ページをご覧ください。32ページは、施策の柱の「1 受入環境の充実」のページになります。ページの下段に、成果指標を記載しておりますが、1番目に「旅行者満足度(日本人)」を設定したいと考えています。

9つめは、「旅行消費が地域にどれだけ残るのかといった指標が立てられると良いのではないか。」というご意見です。

ご指摘のとおり、「旅行消費が地域にどれだけ残るか」ということは大変重要であると認識しておりますが、今回の成果指標や数値目標での設定は見送らせていただければと考えております。理由としましては、対応(案)に記載のとおり、旅行消費の地域内循環に関する統計はないため、現時点での数値設定は困難であると考えられるためです。

今後は、国や他県などの今後の動向を踏まえながら、旅行消費の地域内循環について研究したいと考えています。

なお、先ほど申し上げましたとおり、今回の素案につきましては、前回の審議会でもいただいたご意見を反映するとともに、文言の整理を行っておりますので、併せてご説明させていただきます。資料2-1をご覧ください。

主なものは、3つございます。

1つめは、「③施策の柱と方向性」の「2 観光資源の魅力向上」です。骨子案では(1)と(2)の順番が逆でしたが、今回、県の総合計画の順番に合わせて、順番を入れ替えております。

2つめは、「③施策の柱と方向性」の「3 戦略的なプロモーション」の「(1) デジタルプロモーション」です。骨子案では「デジタルマーケティング」としておりましたが、マーケティングはプロモーションよりも大きな概念であるため、「デジタルプロモーション」に修正しております。なお、「③施策の柱と方向性」の「4 観光振興の体制強化」の(2)がデジタルマーケティングとなっておりますが、骨子案では「客観的なデータに基づく施策立案体制の確立」としておりました、併せて修正しております。

3つめは、同じく「③施策の柱と方向性」の「3 戦略的なプロモーション」の「(4) 県内全域における安定的な旅行需要の喚起」です。骨子案では「旅行需要の分散・平準化」としておりましたが、施策の柱が戦略的なプロモーションであることに鑑

み、旅行需要の喚起に修正しております。

続きまして、施策の柱ごとの成果指標についてご説明させていただきます。資料2-2の32ページをご覧ください。

「1 受入環境の充実」にかかる成果指標についてです。

「(1) 誰もが快適に観光できる基盤づくり」に対応する成果指標として、日本人、訪日外国人それぞれの旅行者満足度を設定したいと考えております。数値は、資料2-2の21ページにも記載しておりますが、「福岡県観光ビッグデータ調査」により把握いたします。日本人については、現状値が87.5%となっており、2026年度までに90%を達成したいと考えております。なお、訪日外国人については、現状値がないため、現在リピーター率と併せて現状値を調査中です。

「(2) 観光振興と地域の調和の推進」に対応する成果指標として、「住民満足度(観光振興による福岡県の活気の実感)」を設定したいと考えております。数値は、県政モニターアンケートという県民の方を対象としたアンケートの中で、毎年度「あなたは観光振興による福岡県の活気を実感していますか」という問がありまして、現状値の58.9%を70%まで引き上げたいと考えております。

「(3) 国際航空路線の誘致」に対応する成果指標として、「福岡空港の新規国際路線誘致数」を設定したいと考えております。本文に記載のとおり、福岡空港の滑走路増設(2025(令和7)年3月に供用開始予定)などの機会を活かし、未就航路の戦略的な誘致に取り組み、県の総合計画で掲げた「2026年度までに累計4路線」を達成したいと考えております。

次ページ、33ページをご覧ください。

「2 観光資源の魅力向上」にかかる成果指標についてです。

ここでは「(2) 体験、交流、滞在型観光の推進」の①、②それぞれに対応する成果指標を設定したいと考えております。

まず、①のサイクルツーリズムの推進に対応する成果指標として、「福岡県広域サイクリングルートの整備数(県管轄区間)」を設定したいと考えております。県では、10の広域推奨ルートを設定しており、そのうち3ルートは県管轄区間について整備を完了しております。今後3年間で、さらに4ルート整備することを目標に掲げたいと思います。

次に、②の高付加価値な旅行商品の造成に対応する成果指標として、「高付加価値な旅行商品(※)の参加人数」を設定したいと考えております。ここでいう高付加価値な旅行商品については、表の下の※印に記載のとおり、「特別な体験を提供することなどにより、一般的な旅行商品と比較して単価が2倍以上となる旅行商品」と定義したいと考えております。理由としましては、観光庁の観光再始動事業の採択要件に「一般的なものと比較して、単価が2倍以上となる高付加価値化の取組を行うものであること」があり、こちらを参考にしています。今後3年間で、こうした高付加価値な旅行商品の参加人数について120名の参加を達成したいと考えております。

次ページ、34ページをご覧ください。

「3 戦略的なプロモーション」にかかる成果指標についてです。

ここでは、前回の審議会でご説明した本県の海外における認知度や政令市以外を訪問した旅行者の割合を成果指標として設定したいと考えております。認知度については、アジアと欧米豪それぞれ現状値から1%アップ、政令市以外を訪問した旅行者の割合については、現在2022年の数値を集計中のため、追って設定したいと考えております。

次ページ、35ページをご覧ください。

「4 観光振興の体制強化」にかかる成果指標についてです。

「(1) 各地域の観光を支える人づくり」に対応する成果指標として、「観光産業を支える人材の育成人数」を設定したいと考えております。具体的には、県内各地域のガイドや宿泊施設などの観光関連事業者を対象とした研修を実施することなどにより、3年間で累計3,000人の観光人材の育成を目標として掲げたいと考えております。

また、「(3) 観光関連団体の機能強化」に対応する成果指標として、「新規事業を創出したDMOの数」を設定したいと考えております。具体的には、①に記載のとおり、観光地域づくりの中核として、新たな視点・発想による事業の創出に取り組むDMOを支援することで、新規事業を創出したDMOの数を今後3年間で10団体と目標設定したいと考えております。

最後に、数値目標についてご説明させていただきます。36ページをご覧ください。

「2 目標値」に記載のとおり、延べ宿泊者数、旅行消費額、旅行消費単価、リピーター率について設定したいと考えております。

延べ宿泊者数および旅行消費額については、日本人と訪日外国人の内訳を示すとともに、旅行消費単価は日本人と訪日外国人それぞれ設定し、リピーター率については、日本人、アジア、欧米豪に分けて設定したいと考えておりますが、冒頭に申し上げたとおり、現状値について現在調査中のため、目標値は追って設定したいと考えております。

算出方法については、次ページ、37ページをご覧ください。

まず、日本人の延べ宿泊者数についてです。

コロナ前の過去5か年で最も多かった2019年から約10%増加させることを目標にしたいと考えております。具体的には、かっこ書きの1,616万人泊×110%≒1,772万人泊になります。

外国人の延べ宿泊者数については、第三期九州観光戦略第一次アクションプランに合わせ、2019年から約34%増加させることを目標にしたいと考えております。具体的には、かっこ書きの426万人泊×134%≒572万人泊になります。なお、第三期九州観光戦略は54ページおよび55ページに記載しております。後ほどご確認ください。

日本人の旅行消費額については、日本人の延べ宿泊者数と同様に、コロナ前の過去5か年で最も多かった2019年から約10%増加させることを目標にしたいと考えております。具体的には、かっこ書きの7,996億円×110%≒8,800億円になります。

訪日外国人の旅行消費額については、第三期九州観光戦略第一次アクションプランに合わせ、2019年から約75%増加させることを目標にしたいと考えております。具体的には、かっこ書きの1,938億円×175%≒3,400億円になります。

日本人の旅行消費単価については、旅行消費額8,800億円を達成するため、2019年から6,200円増加させることを目標にしたいと考えております。具体的には、かっこ書きの44,600円+6,200円=50,800円になります。

通常入国外国人の旅行消費単価については、旅行消費額3,005億円を達成するため、2019年から19,700円増加させることを目標にしたいと考えております。具体的には、かっこ書きの65,700円+19,700円=85,400円になります。

説明は以上です。ご審議の程よろしくお願いいたします。

【事務局】

先ほど旅館ホテル組合の井上理事長がオンラインで参加されたことをご報告させていただきます。定足数が9名という形になります。

【会長】

事務局から議題1のご説明がございました。

前回皆様からいただきましたご意見が反映されているのかどうか、表現に間違いがないかどうかを含めまして、皆様からご意見、ご質問をお伺いしたいと思います。

素案についてご意見等ございましたら挙手にてお願いいたします。

【委員】

前回の意見の集約で反映されたと思うのですが、1点疑問に思ったのは33ページにあります、特別な体験を提供すること～、※印のところです。

一般的な旅行商品と比較して単価が2倍というのが漠然としている気がします。うちも高付加価値の商品の開発をしておりますし、あわせてDMOの目標数値も出しているのですが、なかなかこの感覚が難しい。例えばお茶を飲む体験が700円としているところを、高付加価値だから1400円とするなら、どこの値段をどう上げるのかというがあるので、どういう形でこれを活用して数値にあげられるかの詳しい説明があれば、追加で説明していただきたいし、もし可能であれば、もう少し何かわかるような指数の表現の仕方がないかと思ったのが意見でございます。

【事務局】

一般的な単価、ここで具体的にいくらとお示しするのは難しいのですが、例えば通常

体験すると参加料がいくらっていうものがあると思うのですが、それを特別に職人さんが説明を加えることで商品価値が倍増するだとか、単価が倍になるとか、通常は見られないものを、その期間だけ開けて見ていただくことで金額が上げられるとか、そういったことを想定しての単価設定ということで考えております。

【委員】

120名のカウントの仕方はどのようにされているのでしょうか。

【事務局】

現在、県の方でこのような高付加価値な旅行商品につながるような事業というのがいくつかございまして、そちらでそれぞれ設定している目標値がありますけれども、それを足し合わせると大体この目標値になるように設定をさせていただいております。

【会長】

私からもお尋ねですが、要するに県の取組みとして、高付加価値な旅行商品に対して一定の何か、補助とか、そういったものをされるスキームがあって、それに認定された旅行商品へ参加された方をカウントするという認識でよろしいのですか。

【事務局】

例えば英彦山の巡礼路というのを今開発しているのですが、それに特別なガイドさんについて回っていただくことで、今東京とか県外からも来られているような、金額も結構、10万、20万というような高額な商品もできております。一つの何か事業に補助をすとか、旅行商品の補助をすというよりは、そのような地域にある体験だったり、何か見れないものを見せるようにしていただくとか、地域と一緒にやってそういう商品を作り上げていって、それを旅行商品化して、販売されていくようにする。造成するだけではなくて実際に参加していただかないと、実績、成果につながらないと思いますので、参加してきていただいた方の数を目標値に掲げているというような状況です。

【委員】

ということは、この120名は、対象となるツアーへの参加者ということですね。例えば、これ、ぱっと見たら、「ななつ星」に参加された方とか、すぐ120名に達するんですね。なので、120名って少ないなと思ってしまいました。何がこのターゲットなのかわかりづらいなと思います。

【事務局】

これは、県が造成に関わったものということで設定をしています。

いろいろ数えるときりがなくなるだろうなど、ありがたい話と思うのですが、県がしっかり関わっていくものということで、設定させていただきました。

まずそういった体験プログラムの商品を作っていくって、それをしっかり商品化までしていくというところを一つの事業としてやっていきたいと思っています。

【委員】

ここの下の※印だけでは、なかなかいっぱい旅行商品はありますから、何かそれがわかるような書き方があればというふうに思います。

【事務局】

非常にわかりにくい書きぶりで申し訳ございません。

これにつきまして県の内部の方でもいろいろ議論がありまして、確かに国も高付加価値商品ということで、国の定義では、1回の旅行で100万円使う方を富裕層で、そういう方々としておりますけれども、福岡県として考えた場合、福岡県だけで100万円を使う方ってそうなかなかいらないのかなと思ひまして、それである程度国と県のバランスといったような、福岡県にすれば3、40万かなとか、そのあたりを考えながら今新規の事業を造成しております。

そういった事業の中で、今3種類ぐらい考えておりまして、例えば太宰府で禰宜さんが説明して回るツアーとか、あとサイクリングもガイドさんがついて地域を説明し、危なくないようにサイクリングできるようにするとか、そして、先ほど申しましたように修験道を登山ガイドもついて、そしてまた歴史のこともガイドして話していくような、そういったもので今3パターン考えておりまして、この3パターンの中で、年間10人とか20人ずつ増やして行って、3年間で120人以上はいきたいなというふうに考えております。

ここについては表現の仕方を考えて修正させていただきたいと思ひます。

世の中には「ななつ星」をはじめ、たくさんの高付加価値な商品がいろいろあると思ひますけれど、私たちもその数の計測をどうやって追ったらいいいのかっていうこともありますので、ここは県の事業に限定させていただいて、もちろん市町村観光協会の方と一緒に作っておりますので、そこに限定させていただいて、なんとか人が集まる、実際に参加してくれるようないいものを作っていきたいというふうに考えております。

【会長】

おそらくこの33ページの(2)の②の取組みで、造成する旅行商品への参加人数というのが正しいのでしょうか。だから、そういうニュアンスで表現されたらよろしいのではないのでしょうか。

その他、何かございますでしょうか。

【委員】

質問とコメントとなります。この旅行消費単価というのは、1日あたりのということで間違いはないのでしょうか。それとも滞在中の全体の消費単価なのかというのが一つ疑問としてあります。

【事務局】

1回あたりの単価です。

【委員】

海外の旅行者の方だと、結構連泊して滞在されることもあるかなと思ひまして、ここに記載すべきかというのはまた別ですけども、何泊ぐらいを想定して、滞在してもらえるようにこの目標値を立てていくのかっていうところが、どこか記載されているといいのかなと思ひました。日本人の方と過ごし方が全然違うのかなと思ひましたので、結構、4泊、5泊とかする方もいらっしゃるし、そういう方になると、また単価が変わってくるのかなというふうには見ていて感じたところではあります。

もう1個質問で、リピーター率に関しては、おそらく1回来た方がまたいつか、もう一度来る確率という理解で合っているかというのをお聞きできればと思ひました。

それと、22ページから25ページのインフラ関係の部分に関して、今回記載されているのは、空港、道路交通網、鉄道・バス、とレンタカーという形になるかと思うのですが、私たちが活動している八女エリアとかも、確かにレンタカーで来てくださるお客様はいらっしゃいます。アジアの方が多いかなという印象があります。やっぱり欧米豪の方はもう全然、道路の方向も違いますし、車を運転されることへの心理的ハードルがあるのか、タクシーか公共交通機関を使用する方が多いのですが、八女とかも公共交通機関ではなかなかアクセスできない難しいところもたくさん訪問先にはありまして、どうしても地元のタクシー会社さんとかバス会社さんと連携したプランというのもすごく大事になってくるので、そういったところで、県全体として、各地域のもうすごい、それこそニッチなところにこそ価値が高い部分もあるかと思ひますので、少し行きづらいところも含めて、交通網の部分でどういった考え方をしていくのかということも何かわかるといいのかなというふうに思ひました。以上です。

【事務局】

まず、旅行消費単価につきましては、36ページの2目標値（KPI）の右側に、把握方法というところで記載をさせていただいておりますけれども、外国人の旅行消費単価につきましては、観光庁が訪日外国人消費動向調査で調査をしている数値を参考にさせていただきたいと思っております。

国の方で、かなり細かいアンケートの中で調査をしております、全旅の中でおそらく福岡県内で消費したであろう金額が数値として出るというふうになっておりますので、何泊というところを具体的に想定はしていないのですけれども、そういったものを参考とさせていただければというふうに思っております。

お尋ね二つめといたしまして、リピーターのところがございました。同じく、36ページになりますけれども、それぞれいろいろな形でアンケート調査という形をさせていただきたいと思っております、日本人・アジア・欧米豪というのを分けております。

こちら辺につきましても日本人につきましては、2回目来ましたからリピーターですっていうのもなかなか難しいかなと思っておりますので、一定期間を設けて、その期間内に一度来ていただいた方というふうに考えております。

アジアの特に韓国なんかも、現状、ビートルであったりとか、交通手段としてかなり福岡と韓国を行ったり来たりとか、容易でもありますので、2度目来た方をリピーターとするかどうかというのもちよっと考えるところかなと思っております。

最後、欧米豪に関しましては、おっしゃるとおり2回目の方をリピーターとすべきで

はないかなと考えておりました、そこら辺の設定については、細やかな形でやらせていただきたいというふうに思っております。

最後に、交通の関係がございましたけれども、我々も交通のアクセス向上っていうのは非常に重要と考えておりました、先ほど説明しました32ページの受入環境の充実、(1)誰もが快適に観光できる基盤づくり、の②の中で、県内外の旅行者の県内周遊促進のため、例えばMa a S等も活用しながらアクセス向上を図りたいというふうに考えておりますので、八女地区等含む、二次交通についても、この取組みを図る中で満足度を上げていければなというふうに考えております。以上でございます。

【委員】

二次交通に関して言うと、そういったデジタルツールを活用したやり方を事前にしっかりお客様に周知して、それを活用してもらえるようにプロモーションの部分とセットにしていったりとか、宿泊施設にちゃんと情報共有をしていただいて、来るってわかっているお客さんには、かなり情報が伝達しやすいと思いますので、こういうサービスを活用いただけますと周知させるのが、デジタルツールの場合は結構難しいのではないかと想像しますので、そこら辺をしっかりと運用できるというか、そのような仕組みに落とし込んでいただけるといいのかなというのがあります。

とはいえ、下調べをちゃんとしてくる方もいれば、来てから考えるというお客さんも結構いるなというところがあります。そういった方は、駅に着いてから、こんなに小さい駅だったんだ、どうしようみたいなこともやっぱりあって、どこに電話したらタクシーが来てくれるのかとか、ポスターなどで貼ってあるとか、駅員さんに聞いたら教えてくれるとか、そういう人海戦術みたいなことも同時にやっていかないと、漏れ落ちてしまうお客様もいらっしゃるのではないかなと想像いたしました。以上です。

【委員】

戦略的なプロモーションのところで、アジアにおける福岡の認知度が34%から35%、欧米豪における福岡の認知度が6%から7%というところですが、これ1%上げるのにどのくらい的人数的なものといいますか、何か目標が低いのか高いのかがちょっとわかりづらいなというのと、さっきの高付加価値な旅行商品の参加人数の120名ですが、これは単年ですか、それとも2026年までの累計ですか。

【事務局】

累計で120名です。

【委員】

ちょっと少くないかな。目標値としては簡単に飛びつけそうなのかなと思ってしまったので、目標だともう少し、簡単にクリアできるような目標より少し頑張った方がいいかなと思いましたがいかがでしょうか。

【事務局】

まず、2つめのご質問の120名のところですが、まず造成に1年ほどかけまして、

体験プログラム造っていき、商品化していくと。2年目から、またそこから何十名かの誘客が実際に始まっていきます。初年度はまず造っていくところなので、カウントがない状態の事業もありますので、ずっと割る3というわけではなくて、少しずつ増えていく、累計で、後半に伸びていくようなカウントの仕方で、トータル120ということにしております。

【会長】

ここ設定の仕方は、想定では、令和8年度では何名の設定になってらっしゃったんですか。

【事務局】

令和8年度の単年度では、55です。

【会長】

民間の感覚で言うと、大体準備があって、徐々に増えていって弾みがついてきたなっという感じで、最終年度でこれぐらいいってという計画を立てることが多いので、仮に先ほど55だとすると、おそらく2025年も、令和7年度も55で、令和6年度には10人ぐらいいってという設定になっているのではないですか。

【事務局】

概ねそのような形です。

【会長】

要は極端な話、令和7年度に例えば100名いって、令和8年度に尻すぼみで20名だったりしたら、それはトータルでいったとしても目標としては適切でないわけです。

だから、おそらく最終年度の単年度でどれぐらい実績出すんだってという目標の方が馴染みやすいのかなっていう気はしますね。100なのか120なのか、それはいろいろ考え方があがると思うのですが。そういうことですかね。

【委員】

そうですね。それもありますし、あとはやっぱり何ツアー造られて、何人ぐらいずつという想定があって、県が予算を付けてやられるという前提で私たちこれを見ますので、そうすると目標値、あまりやる気がないのかなというふうに見えちゃうような数字になるかなと思ったんですね、これだけを見ると。なので、ここら辺の想定をお聞きしたかったなというふうに思いました。

【事務局】

高付加価値な事業が一つ、三本のうちの1つめに入っているんですけども、それはお客様の方から、福岡で何か面白いツアーをということでパッケージ商品が販売されるというわけではなくて、お客様のご要望に合わせて造られた体験を組み込んでいたり、時間を短くしたり長くしたりってところがカスタマイズしていくようなもので

すので、何商品というのが数えづらいなというところは少しあります。

価格は30万から40万もあれば、もうちょっと高価格帯の設定をしたりしていますので、目標ですけれども80万以上目指したいというところの商品もございまして、人数はあんまり多くないかもしれませんが、単価としては上げていきたいなというところがございます。

【会長】

意見としていろいろ出ているということで、聞いていただければと思います。

【委員】

今のご意見に関連してなんですけれども、34ページの成果指標の部分なんですけれども、アジア、欧米豪、それぞれ、認知度を1ポイントずつのアップというところなんです。この調査をずっと担当しておりまして、1ポイントのアップというのは、誤差の範囲になってきます。1ポイントという設定が妥当かという、結構難しいかなというところになるかなと思います。

データを見ている立場で申し上げますと、この調査は相対的な順位を見るのに適している調査になりますので、例えば去年は、福岡は、全地名の中では15位だったけれども、来年は10位以内を目指しますよとか、何%上げていくというよりは、相対的な位置付けを上げていく、そういった目標の成果指標の設定の仕方が適しているし、非常にわかりやすくなるのかなと。あと、データの使い方としてもよりよいのかなというふうに感じました。

もう1点、38ページに成果指標を再掲していただいているかと思いますが、ここで、それぞれ現状と目標値とパーセンテージで示されているものがあって、一番右側に算出方法の記載があるかと思うのですが、非常に些末な点で大変恐縮ですけれども、例えば、旅行者満足度の日本人87.5%から目標値90%ということで、算出方法のところ、プラス2.5%ではなくて2.5ポイントかと思いますが、この算出方法の部分でプラス何%というふうに書いてある箇所に関しては、ポイントに修正をされた方がよいのかなというふうに感じました。以上となります。

【事務局】

貴重なご意見ありがとうございます。

認知度の方ですけれども、こちらの認知度の設定につきましては、九州観光機構さんと九州地域戦略会議で作成しています九州観光戦略と合わせる形で設定をさせていただいたところがございます。

一方で、九州という認知度と福岡県という認知度っていうのは、また異なるところでもございますので、委員ご意見を参考にしながら、設定については検討させていただきたいと思っております。

それからポイントの記述の方はご指摘ありがとうございます、修正させていただきます。

【副会長】

話題になっている、38ページの成果指標の数値のところです。

先ほどの認知度34%から35%っていうように、他のところもこの目標値がどういう根拠で、どういうお考えのもとにそれぞれ出てきたのかというのが、これにかかわらずすべてわかりにくいなというふうに思いまして、でもこれ全部ご説明いただくのは大変かと思うので、KPIのところのように、備考っていう欄があって、そこで現状はこれぐらいとか補足の情報があれば、この2.5%が妥当なのかっていうのを考えるサポートになるかと思うので、できる範囲でここに何か備考みたいなものを付けられて、補足の情報を表示できるものがあれば、そういうふうにされてもよろしいのかなというふうに思いました。

【事務局】

ありがとうございます。

確かに単純に何ポイント増やしますっていうだけだと、なぜっていうところがわかりにくいというご指摘は、まさにそのとおりではあるかなと思っております。

県の総合計画などとの整合性を取りながら設定もさせていただいておりますので、お示しするのが難しい部分もごさいすけれども、なるべくわかりやすく工夫をさせていただきたいと思っております。

それと別件ではごさいすけれども、先ほど井上理事長が業務の都合のため、ウェブ会議を退出されたということで、ご報告が来ておりますのでお知らせいたします。

【会長】

今おっしゃったように、例えば37ページの備考で、2015年から等のデータとかがあるとその傾向から見て、頑張った目標なのかとか、そういうのが実際見やすいですよ。

先ほどの旅行者満足度も過去5年間、こんな感じで上がってきていますよというのが見えると、よく頑張っている数字なのか、成り行きなのかというのは見えてきますよね。

その他ご意見ございませんか。

【委員】

30ページの方の基本戦略の部分で、基本戦略に対して、基本的には後ろの方のページで、成果として、指標を置かれているのですが、1点自身の確認も含めてなんですが、これ観光DXの推進に係る成果の指標っていうのは、どこと連動しているかっていうのがちょっと読み解けなくてですね。この辺の指標があれば、ぜひ教えていただきたいです。

【事務局】

DXの推進に関しましては、掲げているとおり、観光産業の生産性向上、あるいは観光地経営の高度化っていうところになりますので、ご指摘のとおりなんらかの生産性の向上なりがある指標があればいいかなと思いますので、こちら辺につきましても検討をさせていただければと思います。

人材育成等につきましては、一応産業を支える人材として年間1千人を目指すというところは記載をしているところではございますけれども、直接DXにつながるかっていうところもございますので、検討させていただければと思います。

【委員】

実はですね、DXに対しては、FM八女でも、今交付金事業とかがDX関係はいっぱい出ておまして、ぜひDXを使われるのであれば、例えば観光案内所辺りもWebを通して、観光案内が無人でもできるとか、そういうような取組みで今後無人の観光案内所みたいな、そういうところを広げていただければ、多分DMOの方には何かやりませんかとか相当お金が来ているので。

ただDXは、お金をなかなか落としてくれないのですよね。メタバースがあったとしても旅行前に見るだけで、それが実際にお金を落とすことにつながるかっていうのが難しい問題ではあるのですが、ぜひここにDXを入れていただいているので、やはりそういう案内所の取組みであるとか、そういう形でぜひ活用を図っていただきたいなと思って発言させていただきました。

【会長】

私も補足しますけれど基本これ31ページの観光DXの推進って何を目指しているかという、生産性向上と経営の高度化のためにDXを使うということなので、もしかしたら何か生産性の指標とか、結果としてデジタル技術以外のものを使った結果かもしれないけれども、就業者1人当たりの売り上げだったり、利益だったり、そういったものが代理変数で見られるところもあるのかなと今ふと思ったりもしました。直接DXが繋がっているかどうかかわからないですが。

その他ご意見ございますか。

【委員】

指摘というよりはお願いという感じですけども、実は去年の秋に、2泊3日で福岡を案内してほしいと、東京にいるお金持ちのすごくアクティブな60から65ぐらいの女性を連れて福岡に来ました。

1日目は、私、用事があって帯同できなかったの、福岡の方が案内して、2日目、3日目を私が案内したんですね、トレッキングをやりたいって言ったので、2日目は平尾台に連れて行きましてぐるっと回って楽しんでもらって、3日目は太宰府の仮本殿を見たいということだったので太宰府に行きました。1日目はなんと福岡の方が唐津城に連れて行ったんだと。そういう状態になっておましてですね、非常にこれまずいなというふうに思った次第なんです。

私いろんな自治体さんのこういう会議とかにいくつか参加させていただいている中でKPIを何にするかっていうのは常にこういう状態になりまして、そういう意味ではちょっと指針を作るにあたってKPIっていうのはどうしてもこういう統計に頼らざるを得なくて、蓋を開けてみるまで達成したかどうかかわからないと。開けてみたら達成してましたとか先ほど指摘があった誤差の範囲ですとかですね、いろんな課題があるのですけれども、それはそれとして作っていかなきゃいけないのですけれども、ちょっとお願

いしたいなと思ったのは、やっぱり福岡、前向きな観光の戦略でいうと、政令市以外のところに何泊泊めるかということと、単価を上げましょうということに尽きるので、本来それが統計で取れるのであればそれを目標にすべきで、福岡市とか北九州市以外のところに泊めるためには体験がたくさんなきゃいけないとか、人を育てていかなきゃいけないとか、なんかそういう方向に、具体的な政策に落とす時には、そういう形にしていただいて、これは補助金でやるのだとか、これは専門家を派遣するのだとか、これは現地で頑張っている人たちにスポットを当てて、何か売り出すのだとか、何かそういう具体的に、やられるのがいいかなと思いますので、K P Iをずっと議論してもそろそろ、どん詰まりかなというふうに思っていますちょっとお願いという形で、話させていただきました。

【事務局】

先ほど委員からご指摘ございましたK P Iの関係で、政令市以外のというところなんですけれども、資料2-2の20ページをご覧くださいますと、こちら福岡県独自の調査になりますけれども、NTTドコモさんのモバイル空間統計を利用いたしまして、県内の観光客の方がどういった形で分布をしているのかというデータは、取得しているところでございます。これを踏まえまして、34ページのK P I、まさに県内各地を訪れていただくためというところで、政令市以外を訪問した旅行者の割合、これ一応、今は旅行者という形で、設定をさせていただきたいと考えております。

委員ご指摘の中で宿泊はどうだろうという話もあったのですが、いわゆる宿泊施設のキャパシティ等の関係もありまして、やはりこれを急に福岡市外を増やしていくというのは、難しいのかなというふうにも考えておりますけれども、福岡市に宿泊した方でも、県内各地を周遊していただくということはできるのかなと思っております、こういった設定とさせていただいているところでございます。

【事務局】

ご意見ありがとうございます。

委員ご指摘のとおり県のミッションといたしましては、やはり政令市に集中する観光客をいかに県域の方に周遊していただくかということだと思っております。

それで私どもも、令和2年から新しい観光地域づくりということで、県内6エリアを設定いたしまして、その地域に合った独自テーマで、「食べる・遊ぶ・泊まる」といった形でさせていただいておりますので、今日来ていただいている八女の方もクラフトの町ということでやっております。

今年度までにいろいろな体験のプログラムを観光素材開発ということで、検討し、市町村の皆さん、観光協会の皆さんと一緒にたくさん作って参りました。

そのプログラムをいかにこれからの魅力のあるものというか、実際に観光客の方が行きたいな、体験したいなと思うようなものにしていくかっていうのがこれからの課題だと思っております。

そういったことも含めましてのプロモーションと、そしてまた来ていただくことによって、その内容をより良くしていく、そしてリピーターになってもう1回来てみたい、今度はあちらの地域に行ってみみたいとか、県内周遊をどんどん進めていきたいと思っ

おりますので、よろしくお願いいたします。

【会長】

その他ご意見ございますでしょうか。

まだお時間がございますので、気になったところがあればすべておっしゃった方がよろしいかと思えます。

【委員】

さっきの高付加価値化の話なのですが、実は前年度から今年度にかけて、八女で高付加価値化商品の造成を観光庁の補助事業を使ってやっております。頑張っ、福岡発着で作ったところで、やっぱり30万だったんです。

その30万のうちの宿泊の分が大体NIPPONIA HOTELというちょっと高いところがございますので、そこのランチとかやっても、そのくらいですと。先ほど委員も言われましたように、やっぱり二次交通がございませんので、西鉄さんのグランデイズを使ったりとかしたのですがそのくらいなんですよね。となってくると、やっぱり八女だけでは高付加価値化はできないということなので、先ほど言われたように、もちろん政令指定都市に宿泊も大事とは思いますが、例えばふかほり邸や糸島であったりとか、そういう横のつながりを持ったツアーとかを、今度、県がやっていくのであれば。その中にはもちろん「ななつ星」での移動とか、入れていただければとも思いますので、そういうような取組みをされればと思っ、て発言させていただきました。

【事務局】

ご意見ありがとうございます。

今のような形でですね、そのエリアだけだと難しいことも福岡県全体で考えると、また商品化もいろいろできると思えますので、頑張っ、ていきたいと思えます。

高付加価値でも、二つぐらい種類があるかなと思っ、ていまして、100万円以上ぐらいい落とす、本当に富裕層のお客様がラグジュアリーな体験をしに来るっ、ていうパターンと、もう一つは、地域ならではのことに触れて、そのためにお金を落とされるっ、ていう、地域でお金を落とすっ、ていう、体験自体がその地域でしかできない、そのためにお金を落とすっ、ていう方もおられると私たちは考へておりますので、そういっ、た2軸で高付加価値を進めていきたいなと今考へているところです。

【委員】

最近とっ、ても思っ、るのが、福岡に住んでいる日本人もそうだし、在住の外国人の方が、仲介となっ、て新しく来てくださったりとか、その人が案内してくれたりとかっ、ていう案内人みたいな方が、結構キーになっ、て来たりすることもあるなと思っ、ていて、まずは福岡県内とか九州の人が自分たちの地域の魅力をしっ、かり知っ、ていただくっ、ていうこともある意味国内の観光客のお客様ですね、国内観光客っ、ていう目線だけじゃなく、そこからリピーターにつながるっ、ていうか、そのロコミ的な感で、これは海外の友達に紹介したりとか、広まっ、ていく。今特にSNSも非常に若い人とか、もう全部撮影しながら歩いたりとかっ、ていうことよくあると思っ、るので、そういう満足した人がさらに

それを発信して次の人が来るっていうのが、今の広告のあり方の一つでもあると思うので、やっぱりそういう目では、高付加価値っていう商品は非常に重要だと思いますし、その層をきちんとキャッチできる地域でないといけないなとは思いますが、同時にやっぱりまだ、バックパッカーだったりとか学生だったりとか、興味はあるけれどもすごく高いものにお金を出すことができない人、まだ力はないけれど将来的にその人たちが戻ってきてくれる可能性もすごくあると思いますし、そっちだけを見るのではなくて、育てていくという観点でも、お客様と長い目につき合っていくとか、地域と接点をいっぱい作るっていうのはすごく大事なんじゃないかなというふうに思いました。

【事務局】

本当におっしゃるとおりで、一つ私たちが考えなきゃいけないなっていうのは、まず福岡都市圏の大きな人数が他県に、それこそおっしゃられたように、割と福岡の人は、観光地はもう太宰府と柳川しかなくて、他何も無いもんねっていうのは、よく福岡県人が言う言葉で、もうそれこそ唐津に行ってみたり長崎行ってみたりという形になりますので、私たちといたしましてもやっぱり福岡都市圏の人が、まず気軽に土日を利用して、県内の、今まであまり観光地として見ていなかったところに行っていただけのような仕組みを何とかつくっていききたいなと思っております。

それで先ほど申しました6エリアというところを今、一生懸命の市町村の皆さんと一緒に作っておりますので、そこら辺を、まず福岡都市圏の人たちに知っていただいて、できれば宿泊もしていただいて、そしてそれをどんどん県外からお友達が来たとか親戚が来た時に紹介していただけるような、そういった仕組みを作っていききたいなと思っております。

ご意見ありがとうございます。

【会長】

指針素案の21ページの旅行者の満足度というのがどんな分析をしてあるのかなと思って見ていたのですが、これは要するにアンケートをとって、テキストマイニングで、こういう数値化をしていくということなのでしょうけど、このアンケートって、福岡県に来た人に全員にアンケートしてらっしゃって、福岡県に来るにあたっての、例えば交通利便性の評価であれば、福岡に来るにあたって便利でしたかというふうな、そういった感じの分析になっているのか、県内の移動が便利だとか、なんかその辺のところっていうのは何か、どんなふうにとらえて分析してあるのですかね。

【事務局】

こちらの方、福岡県の事業といたしまして、観光ビックデータ調査の中でやらせていただいたのですが、この調査につきましてはちょっとコロナ禍ということもあって日本人のみを対象としておりますが、実際に福岡に来ていただいた方が帰った後に、こちらの、いわゆる位置情報で来たかどうかがわかるということで、実際にこられた方にdポイントを使ったアンケート調査をした結果の満足度を計測しているものでございまして、下の方の交通利便性への評価、イベントへの評価、食事への評価というところは、このアンケートの際に行った自由記述欄を単語で分析したときに、やはり食事への

評価が高かった、あるいはイベント目的で来られた方のイベントへの評価が高い、あるいはやはり空港が近かったり、市内だと鉄道網がかなり発達しているところもあって、交通利便性についても便利だったというふうなご回答が多かったというところをマイニングした結果がこういった形になっているところでございます。

【会長】

おそらく、先ほど委員がおっしゃったような形で、要するに政令都市以外のところにとりだけの人が来ていて、その人たちが何を感じたのかというふうなところに対して施策を打っていかれるっていうことが大事だとすれば、こういった分析も多分、いわゆるドコモさんのビッグデータを取る時に、福岡市内におられる人ではなくて、柳川とか、うきはだとかにいらっしゃる人のところのデータだけを引っ張ってくると、もしかしたら違う評価が出て来るのではないのかなみたいところは若干感じたりもするのですね。

県全体でとらえていくと、ものすごくこれ満足度高いなと思ったわけです87.5すでにあるわけで、でもこれ多分これ、87.5のデータを、この高い数値を牽引しているのは、食事への評価がすごく大きくて、他のイベントへの評価とか交通利便性への評価はそんなに大きな丸でもないですし、実は課題としては交通利便性だったり、イベントを打ってそれがちゃんと当たっているかみたいのところを見ていかなきゃいけないなというところもありますし、交通利便性にしても福岡自体に来るのは空港も近いので、アクセスがものすごくいいという評価になるのですが、県内回る時にどうでしたかっていう話になると多分違うワードが出てくるのではないかと、自由記述なのでそこまでしてないので難しいでしょうけど。

だから、なんとなくこの満足度っていう指標もどうなのかなというところも感じたりはしながら見てはいました。

【事務局】

ご意見ありがとうございます。

この調査につきましては、引き続き調査をしていきたいと考えておりますので、また翌年度以降の調査内容に、そういう政令市以外の訪問者満足度はどうかとか、そういった視点での分析も、これからの調査においては可能かと思っておりますので、翌年度以降の調査で検討させていただきたいと思っております。

ありがとうございます。

【会長】

最後に一つだけ、これKPIとかもろもろ設定されていますけど、設定の具合っていうのは、ご担当部局としてチャレンジングな目標という認識でよろしいのでしょうか。

【事務局】

はい。高い目標、全然到達できないってなるとちょっと行政的にはどうかと思っておりますので、なんとか頑張っってやっていきたいと思っております。

先ほどから皆さんどうかなと思っていらっしゃる高付加価値事業についてですけど

も、これも今回初めて設定するので、こういった形でやっていけばいいのかと、あと把握がどれだけできるのかっていうちょっといろいろありまして、あと民間の皆様から見たらこんな低いっていう感じに思われるかなと思いますが、ちょっとやり方を考えて、またこの事業につきましても県は、やはりそういった商品を造るところには支援をしていって、実際販売されるのは民間の方々、そしてお金はできるだけ地元の方々に落ちていくような形でやっていきたい、そういったお手伝いをしていこうと思っておりますので、地域の皆さんといろいろ話し合いながら、それがそれこそ持続可能な商品となっていく、いつ行っても必ずこういったサービスが受けられる、この年だけってというような形じゃないものを作っていきたいなと思っておりますので、またいろいろ相談して、設定の方法と説明の方法を考えていきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

【会長】

ありがとうございます。

それでは欠席されてる委員からお預かりしているご意見がありましたら事務局の方からご紹介をお願いします。

【事務局】

はい。本日欠席の委員からのご質問ご意見等は承っておりません。

【会長】

ありがとうございます。皆様から非常に闊達なご意見をいただきました。ありがとうございました。その他もよろしいですね。

それでは、事務局から補足説明等がありましたら発言の方よろしくをお願いします。

【事務局】

今後のスケジュールにつきましては、今皆様方からいただきましたご意見、それから現在調査中のK P Iの数値等も含めまして、完成したものを再度委員の皆様へ今度メール等の形でお送りさせていただきまして、ご意見を伺いたいと思っております。

ご意見を伺った後にパブリックコメントを行うことを考えておりますので、よろしく願いいたします。

それから次回の審議会の日程でございますけれども、現在前回審議会時に2月16日ということでご連絡を差し上げていたところでございますけれども、議会の日程等の影響がございまして変動の可能性がございます。

詳細につきましてはまた改めて担当の方から日程調整をさせていただきたいと思っておりますので、ご理解のほどよろしく願いいたします。

事務局からは以上でございます。

【会長】

ありがとうございます。

皆様貴重なご意見ありがとうございました。

皆様から賜った意見を踏まえまして事務局は対応の方をよろしく願いいたします。

今説明がありましたように、次回審議会では、今後実施されますパブリックコメントの結果と、今日のご意見やパブリックコメントのご意見等を踏まえた観光振興指針案を御示しいただき議論するということになります。事務局の方よろしくお願いいたします。

それでは以上をもちまして本日の審議会を終了いたします。

議事進行にご協力をいただき、ありがとうございました。

本日、皆様からいただきましたご意見を参考に、福岡県におかれましては、より一層の観光振興に取り組んでいただければというふうに思っております。

それでは進行をお返しいたします。

【事務局】

会長ありがとうございました。

また委員の皆様におかれましても本当にいろいろなご意見ありがとうございます。事務局としてもやはりなかなか難しい目標値設定とか事業目標とか、内部でもいろいろあったのですが、やはり皆様のご意見は県民の皆様が思っていることだろうと思っておりますので、真摯に受けとめさせていただきまして、もう一度、内容を検討して参りたいと思います。

本日はどうもありがとうございました。